

政策評価調書(3年度実績)

| | | | | | |
|-----|---------------|-------|-----|-------|-------------------------------|
| 政策名 | 女性が輝く社会づくりの推進 | 政策コード | Ⅱ-7 | 関係部局名 | 生活環境部、福祉保健部、商工観光労働部、土木建築部、教育庁 |
|-----|---------------|-------|-----|-------|-------------------------------|

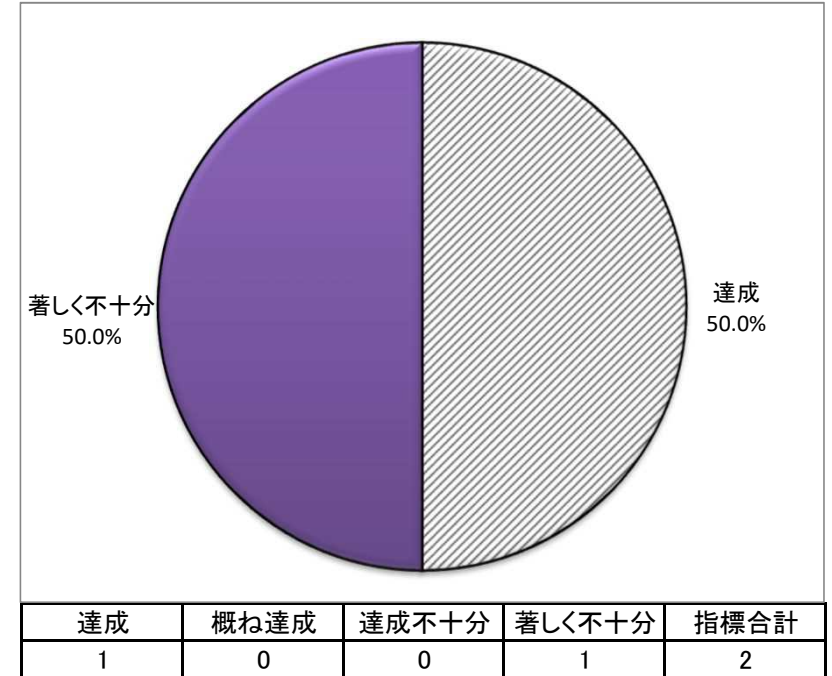
【Ⅰ. 政策の概要】

働く場をはじめ、あらゆる分野での女性の活躍を推進するため、固定的な性別役割分担意識など、女性が感じる生きづらさを解消し、男女がともに責任を分かち合う環境づくりを進めるとともに、安心して子どもを産み育てながら働けるよう、官民が連携して柔軟な働き方の導入や職場環境の整備などを行い、すべての女性が輝き活躍できる社会を目指す。

【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

| 施策名 | | 指標評価 | 総合評価 |
|-----|---------------------|------|------|
| 1 | 女性の活躍推進と男女共同参画社会の構築 | 概ね達成 | A |

【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



【Ⅴ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

少子高齢化、人口減少が進む中、地方創生の道筋を確かなものとするには、男女がともに責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮できる社会とする必要がある。女性の就業率は全体的に上昇しているものの、全国で第1子出産を機に約半数が退職するほか、介護や看護で離職、転職する人が毎年約10万人に上り、その約8割が女性であるなど、出産、子育て、介護等を理由に就業を中断する女性が依然として多い状況にある。

その要因として、「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)が根強く存在していることから、その解消に引き続き努めるほか、女性の継続就労が可能となる働き方の導入や、働きやすい職場環境の整備に加え、スキルアップを希望する女性への支援も求められている。これらの課題解決に向け、経済界との連携も含め具体的方策を引き続き進める必要がある。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、多くの非正規雇用の女性が失業した。また、科学技術・学術分野における研究職・技術職に占める女性の割合は増加傾向にあるものの、日本は16.6%と諸外国と比較して、低水準にとどまっている。技術や技能を持った女性人材を育成し、安定的な雇用につなげるとともに、次世代を担う女性の科学技術人材を育成していくため、女子中高生が科学技術に興味・関心を持つような機会を増やし、生徒のみならず、保護者や教員等に対し、理工系選択のメリットに関する意識啓発、理工系分野の仕事内容、働き方及び理工系出身者のキャリアに関する理解を促すなど、キャリア教育の推進を図る必要がある。

【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

| 指標名 | 達成率 |
|--|-------|
| 雇用者のうち管理的職業従事者に占める女性の割合(%) | 78.9% |
| <著しく不十分となった理由> | |
| 次世代女性リーダー養成講座や管理職等のための女性部下育成支援セミナーの開催、コンサルタントの事業所への派遣等により人材育成、登用支援を行ったが、固定的な性別役割分担意識(アンコンシャス・バイアス)の根強い存在が理由として考えられ、目標値を達成できなかった。 | |
| まずは、働く場におけるアンコンシャス・バイアスの事例と対処方法をまとめた動画を配信すること等により、広く県民に対して啓発していく。 | |